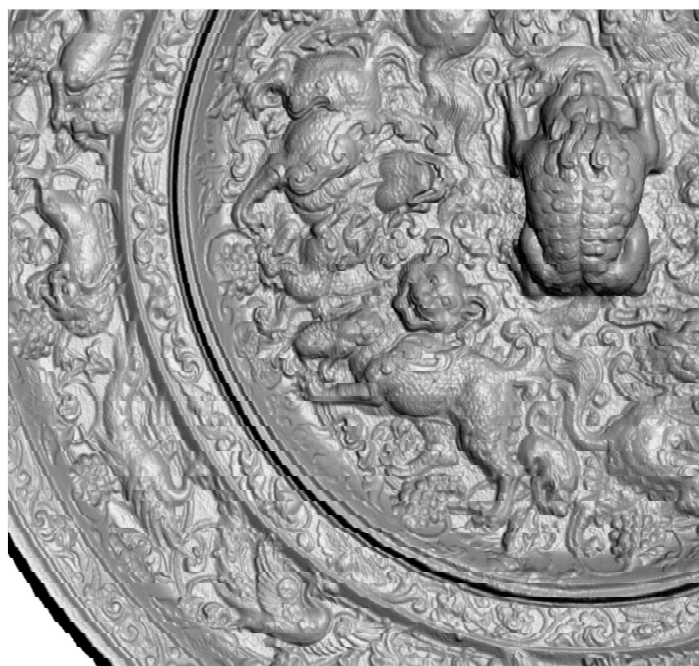


兵庫県立考古博物館加西分館「古代鏡展示館」開館記念フォーラム

古代中国鏡

千石コレクションの魅力語る



平成 29 年 6 月 17 日 (土) 13:30~16:30

於：加西市健康福祉会館（ラヴィかさい）



兵庫県立考古博物館 加西分館

古代鏡展示館

Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

兵庫県立考古博物館加西分館「古代鏡展示館」開館記念フォーラム
「古代中国鏡 千石コレクションの魅力語る」

スケジュール

13:30 開会

開会挨拶【兵庫県立考古博物館長 和田晴吾】

ご挨拶 【ご寄贈者 千石唯司氏（(株)千石 代表取締役社長）】

13:35 ■フォーラム1 「千石コレクションの概要と中国鏡の歴史」

千石コレクションの内容や銅鏡史の概説

【登壇いただく先生：難波（進行）・岡村・廣川 各先生】

14:20 休憩・舞台準備

14:35 ■フォーラム2 「千石コレクションの魅力語る」

鏡の考古・美術の観点と理化学分析の成果

16:05 ■フォーラム3 「千石コレクションに期待される調査研究の展望」

今後の研究視点や活用

【登壇いただく先生：

難波（進行）・岡村・森下・廣川・山中・成瀬・田村 各先生】

16:27 閉会挨拶【兵庫県教育委員会文化財課長 山下史朗】

16:30 閉会

フォーラムにご参加いただく先生方

千石コレクション調査研究委員会

委員長 難波 洋三（独立行政法人 奈良文化財研究所 客員研究員）

副委員長 岡村 秀典（京都大学 人文科学研究所 教授）

森下 章司（大手前大学 総合文化学部 教授）

廣川 守（公益財団法人 泉屋博古館 副館長）




山中 理（公益財団法人 白鶴美術館 顧問）

成瀬 正和（東北芸術工科大学 客員教授〔元宮内庁正倉院事務所保存課長〕）

田村 朋美（独立行政法人 奈良文化財研究所 都城発掘調査部 研究員）

（順不同・敬称略）

1		名称	緑松石象嵌鋸齒縁鏡				図版№	1	
		時代	二里頭(夏)	年代	BCE17-16c	直径(cm)	22	重量(g)	769
		解説	のこぎりの歯のような鏡縁、トルコ石の紋様は光芒を表すのか。鏡の表面に刻まれた紋様は、最古級の銅鏡の謎を解くカギとなる。						
2		名称	鋸齒縁鏡				図版№	2	
		時代	商	年代	BCE15c	直径(cm)	16	重量(g)	387
		解説	のこぎりの歯のような鏡縁に、十字型の透かし孔。姿見としての鏡の用途だけでは説明できない特徴をもつ。						
3		名称	蟠螭紋透彫鏡				図版№	23	
		時代	戦国	年代	BCE5c	直径(cm)	12	重量(g)	227
		解説	合金の比率が違う紋様板と鏡面を重ねることで、紋様の複雑さと白銀色の鏡面を両立させている。						
4		名称	孔雀石象嵌透彫鏡				図版№	24	
		時代	戦国	年代	BCE4c	直径(cm)	11	重量(g)	169
		解説	文様を透かした板に姿を映す鏡面用の円板を嵌め込んだ二枚重ねの鏡である。鏡体の凹みに孔雀石をはめ込んでいる。						
5		名称	彩絵人物車馬鏡				図版№	76	
		時代	前漢	年代	BCE2c	直径(cm)	23	重量(g)	774
		解説	小円によって分割された区画に、狩猟、歓迎、宴、対面の場面を描く。当時の習俗がわかる貴重な資料である。						

6		名称	描金方格規矩四神鏡				図版№	124	
		時代	前漢	年代	CE1c	直径(cm)	16	重量(g)	607
		解説	金で紋様を描いた貴重な鏡。天は円形、地は方形という天円地方の思想に基づいており、四方には四神を大きく描く。						
7		名称	方格規矩四神鏡				図版№	132	
		時代	新(王莽)	年代	CE1c	直径(cm)	20	重量(g)	962
		解説	四神のうち青龍はカラスのいる太陽を、白虎はカエルのいる月をもつ。周囲にはたくさんの小鳥がいる。						
8		名称	画像鏡				図版№	148	
		時代	後漢	年代	CE2c	直径(cm)	23	重量(g)	1,450
		解説	図像が漢代の「画像石」の図像に似ているため、「画像鏡」と呼ばれている。神仙や車馬など、故事由来の図像を表す。						
9		名称	鍍金同向式神獸鏡				図版№	156	
		時代	後漢	年代	CE2c	直径(cm)	15	重量(g)	560
		解説	ほぼ全面に鍍金を施す。最下段左側には、文字を発明した四ツ目の蒼頡(そうけつ)を表す。						
10		名称	鍍金対置式神獸鏡				図版№	155	
		時代	後漢	年代	CE2c	直径(cm)	15	重量(g)	526
		解説	ひれ状の装飾をもつ二体の神像は、西王母と東王父で、他に黄帝、人頭鳥身の玄女(げんにょ)、琴などを表す。						

11		名称	重列式神獸鏡				図版№	141	
		時代	後漢	年代	CE2c	直径(cm)	17	重量(g)	796
		解説	陰陽五行説や神仙思想に基づいた神仙や靈獣がひな壇のように並ぶ。四神を配置し、鏡に方位を与えている。						
12		名称	金ガラス象嵌盤龍紋方鏡				図版№	177	
		時代	隋	年代	CE6-7c	直径(cm)	5.9	重量(g)	83
		解説	鈕の周囲を2匹の龍が旋回する。鏡縁には金箔が貼られ、その上からガラスが被せられている。大きさから副葬用か。						
13		名称	貼金ガラス象嵌鳳紋鏡				図版№	178	
		時代	南北朝-隋	年代	CE6-7c	直径(cm)	4.6	重量(g)	40
		解説	各区画に彩色を施し、金の紋様板を置き、ガラスをかぶせている。大きさから実用品ではなく、副葬用の可能性が高い。						
14		名称	八瑞獸紋鏡				図版№	196	
		時代	隋-唐	年代	CE6-7c	直径(cm)	27	重量(g)	3,900
		解説	八匹の瑞獸を主紋様とする。銘文の「練形神冶瑩質良工」は、神の技によって作られた秀でた鏡であることを意味する。						
15		名称	海獸葡萄鏡				図版№	205	
		時代	唐	年代	CE7c	直径(cm)	26	重量(g)	3,145
		解説	獣の角や毛並みが表現され、特に精細な表現が特徴的。かつての銘帯は、チョウ、ハチ、ガが舞う紋様帯となっている。						

16		名称	海獣葡萄鏡			図版№	221		
		時代	唐	年代	CE7c	直径(cm)	17	重量(g)	1,162
		解説	三頭の獅子と三匹の双角の龍が巡る。中国西安市独孤思貞墓からは神功2年（698）銘墓誌とともに出土してい。また、奈良県高松塚古墳から同型鏡が出土している。						
17		名称	双獣双鳳紋鏡			図版№	258		
		時代	唐	年代	CE8c	直径(cm)	18	重量(g)	1,479
		解説	写実性に富んだ図柄で、ゆったりとしたデザインである。外側に頭を向けるのは、唐鏡後半の特徴。						
18		名称	貼銀鍍金海獣葡萄鏡			図版№	239		
		時代	唐	年代	CE7-8c	直径(cm)	22	重量(g)	2,334
		解説	鍍金した銀板を鏡の本体に貼り合わせている。紋様は葡萄唐草紋と瑞獣で、唐草紋は外側へと延びている。						
19		名称	貼銀鍍金双鳳走獣紋八花鏡			図版№	245		
		時代	唐	年代	CE8c	直径(cm)	24	重量(g)	2,080
		解説	八枚の花弁のような外形である。主紋は鳳が対になり、その間に神仙世界の仙岳と思われる山岳がそびえる。						
20		名称	金銀平脱童子騎獣紋八花鏡			図版№	291		
		時代	唐	年代	CE8c	直径(cm)	31	重量(g)	2,560
		解説	中央の透彫されたハスに金のアクセントが美しい。周囲には獣にまたがり疾駆する童子と、植物紋が交互に並ぶ。						

21		名称	金銀平脱唐子唐草紋八花鏡				図版№	292	
		時代	唐	年代	CE8c	直径(cm)	30	重量(g)	2,780
		解説	金の唐子はハスの上で葉を付けた枝をもつ。枝をくわえて飛ぶ銀の鳥や金の雲気紋、植物紋を配置している。						
22		名称	螺鈿瑞花紋八花鏡				図版№	295	
		時代	唐	年代	CE8c	直径(cm)	31	重量(g)	2,560
		解説	鏡体全面を八分割し、花紋を散りばめている。白色はヤコウガイ、アメ色はコハクで、隙間には宝石の細片を充填する。						
23		名称	螺鈿双鸚鵡紋八花鏡				図版№	296	
		時代	唐	年代	CE8c	直径(cm)	17	重量(g)	725
		解説	正倉院の楽器にも、二羽一対のオウムが表されており、コハクを用いたモチーフの表現方法や技法に共通点が多い。						
24		名称	金粒珠玉象嵌宝相華紋六稜鏡				図版№	299	
		時代	唐	年代	CE8c	直径(cm)	8.8	重量(g)	201
		解説	メノウ、ピンク水晶などの宝石で主紋を構成し、隙間を金粒で充填する。細金細工は、ペルシャ起源の技法である。						
25		名称	金粒珠玉象嵌宝相華紋鏡				図版№	300	
		時代	唐	年代	CE8c	直径(cm)	5.8	重量(g)	83
		解説	宝相華とは、ボタンやハス等の幸運をもたらす様々な花を合成した空想上の花。それを金粒や宝石で華麗に表現する。						

鏡 形



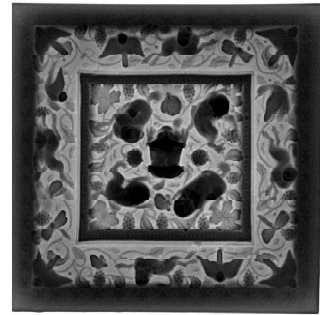
円 鏡



稜花鏡（八稜鏡）



葵花鏡（八花鏡）



方 鏡

鏡の平面形（外形）のこと。円形（円鏡）が多く、他に、方形（方鏡）、稜花形（紋様の単位数により、八稜鏡、六稜鏡などと呼ばれる）、葵花形（紋様の単位数により、八花鏡、六花鏡などと呼ばれる）などがある。

銅鏡の成分

多くは青銅製である。青銅とは、銅を主成分として錫や鉛を含んだ銅合金で、種類や成分比は時代や地域によって異なる。錫の含有量が多いと白銀色の白銅となるため、鏡には20%以上の錫を含むものが多いが、もろく、割れやすくなるため、高度な技術が必要となる。

銅鏡の制作

鑄造であり、紋様を彫り凹めた土製や石製の鑄型に、高温で融解した青銅を流し込んで制作される。冷却後、青銅が流し込まれた湯口や、鑄型の合わせ目から流出したバリを切り離した後、全体を整形し、鏡面を磨く。

紋様のもつ意味

鏡の所有者に吉祥をもたらすため、鏡背には様々な紋様が表された。不老長寿や陰陽の調和を図る神仙世界、壮大な宇宙観、西アジアの楽園のデザインなど、紋様には各時代の思想や信仰、社会情勢などが反映されている。

略年表

年 代	中 国	日 本	主なできごと
前 2,000	二里头文化(夏?)	縄文時代	(中国)青銅鏡の出現
前 1,500	商(殷)		(中国)青銅祭器の盛行
前 1,000	西周		
前 800	春秋(前770~前453) 戦国(前453~前221)	弥生時代	(中国)青銅鏡の盛行
前 400			
前 200	秦(前221~前206) 前漢(前202~後8)		(日本)青銅鏡の出現
1	新(王莽)(8~23) 後漢(25~220)		57 奴国王が後漢に朝貢し、金印を受ける
200	三国(220~280) 六朝(220~589)	古墳時代	239 卑弥呼が魏より鏡100枚等を受ける
400	南北朝(439~589)		413~478 倭の五王、南朝に9回以上遣使
600	隋(581~618) 唐(618~907)	飛鳥時代(593~)	600~614 遣隋使 630~894 遣唐使
800		奈良時代(710~)	756 光明皇后が東大寺に聖武天皇の遺愛品を奉獻
1000	五代十国(907~960) 北宋(960~1127)	平安時代(794~)	